



# ICTまちづくりに関する情報交換会（第6回）を開催



北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島 泰裕 金沢大学客員教授）は、令和5年2月20日（月）に、北陸総合通信局の会議室とオンラインによるハイブリッドで、第6回「5G・ICTまちづくり情報交換会」を開催しました。

今回の情報交換会は、第5回に引き続き、北陸総合通信局が主催する「北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会」第2回会合を第6回情報交換会と位置付け開催したもので、飯島部会長はオンラインで、大藪副部会長は現地で参加しました。

小津敦局長の挨拶のあと、事務局から北陸3県及び全51市町村を対象とした5G等整備要望調査（以下、「アンケート」という。）により得られた結果について説明を行いました。このアンケートは、第1回会合において提言された5G整備に係る意見を受け、携帯事業者5Gのほか、ローカル5G、LTE（4G）、Wi-Fi、LPWA等、幅広い通信サービスに係る要望を調査したものです。

その後、北陸3県から、(1)各県のデジタル実装に関する独自施策、(2)総務省及び携帯電話事業者等への要望、(3)アンケート結果に表れない潜在的要望が存在する可能性及びその要因について説明がありました。それに続き、携帯事業者各社から、(1)事務局作成アンケートの結果、(2)北陸3県からの説明等について発言がありました。

続いて、射水ケーブルネットワーク株式会社から、地元の射水市役所との協力体制に基づき地域課題の解決に取り組んだ事例について紹介があり、最後に、事務局から地域デジタル基盤活用推進事業を始めとした総務省ICT振興施策の概要等について紹介がありました。

その後の意見交換では、アンケート結果及び5G整備に係る課題等についての活発な議論があり、大藪副部会長は、「【安全安心】は最優先に進められていることが重要。災害が発生した場合、迅速に対応することで人命を守るシステムがまず第一に必要なではないかと感じる」と発言しました。

北陸総合通信局は、デジタル田園都市国家構想の実現に向けて、引き続き議論を深めていく予定であり、当部会も引き続き構成員の一員として参画していく予定です。



大藪副部会長(左) 小津北陸総合通信局長(右)



会場内の模様